



## ARIS Risk & Compliance Manager

# リスクベースの統制システム表記規則 マニュアル

バージョン 9.8 – Service Release 5

2016 年 6 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 9.8 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2016 [Software AG](#), Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://softwareag.com/licenses>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at <http://softwareag.com/licenses> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

## 目次

1	はじめに .....	1
2	テキストの表記規則 .....	2
3	本マニュアルの内容 .....	3
3.1	目的および範囲 .....	3
4	ARIS 表記規則 .....	4
4.1	モデリング レベルおよびモデル タイプ .....	4
4.1.1	モデリング レベルおよびモデル タイプの概要 .....	4
4.1.2	統制およびプロセスの識別 .....	5
4.1.2.1	プロセス モデル .....	5
4.1.2.2	レベル 1 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD) .....	6
4.1.2.2.1	ファンクションとプロセス階層要素 (ARCM) の割り当て .....	7
4.1.2.3	レベル 2 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD) .....	9
4.1.2.4	レベル 3 のプロセスおよび統制モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC) .....	10
4.1.3	企業の追加階層の文書化 .....	12
4.1.3.1	規定階層 .....	13
4.1.3.1.1	用語 (ABA) と規定階層要素 (ARCM) の割り当て .....	14
4.1.3.2	検査者の階層 .....	16
4.1.3.2.1	組織ユニット (ABA) と検査者階層要素 (ARCM) の割り当て .....	17
4.1.3.3	組織の階層 .....	19
4.1.3.3.1	組織ユニット (ABA) と組織階層要素 (ARCM) の割り当て .....	20
4.1.3.4	リスクの階層 (オプション) .....	22
4.1.4	ユーザーとユーザー グループの作成 .....	23
4.1.4.1	役割と要員の割り当て .....	25
4.1.5	リスクの分析、および統制と検査の展開 .....	27
4.1.5.1	リスク .....	29
4.1.5.2	統制 .....	32
4.1.5.3	検査の定義 .....	34
4.1.5.4	一般モデル作成規則 .....	37
4.1.5.5	自動の統制検査 .....	37
4.1.6	サインオフ .....	37
4.1.6.1	プロセス階層を使用するサインオフ .....	37
4.1.6.2	規定階層を使用するサインオフ .....	38
4.1.6.3	検査者階層を使用するサインオフ .....	39
4.1.6.4	組織階層を使用するサインオフ .....	40
4.2	オブジェクトと関係の非アクティブ化 .....	41

## 1 はじめに

ARIS のモデルを用いて業務プロセスと業務ファンクションを記録すると、(一貫性、複雑さの軽減、再利用性、評価の可能性、整合性など) さまざまな利点があります。

ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) に転送されて、再利用することができます。

## 2 テキストの表記規則

各項目の表記規則について説明します。

- メニューアイテムやダイアログ ボックスなどの UI 用語は角括弧 ([]) で表記されます。
- ユーザーが入力する内容は、山括弧 (<>) で表示されます。
- 複数行から成る長いディレクトリ パスなどの、1 行から成る例のテキストは文字 ↵ により行の最後で分割されます。
- ファイルからの抽出テキストは、次のフォントで表示されます。

```
This paragraph contains a file extract.
```

## 3 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

### 3.1 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザーの文書

## 4 ARIS 表記規則

### 4.1 モデリング レベルおよびモデル タイプ

#### 4.1.1 モデリング レベルおよびモデル タイプの概要

以下の図は、プロセス モデリングのレベル、およびそのレベルで使用が推奨されるプロセス モデル タイプを示しています。

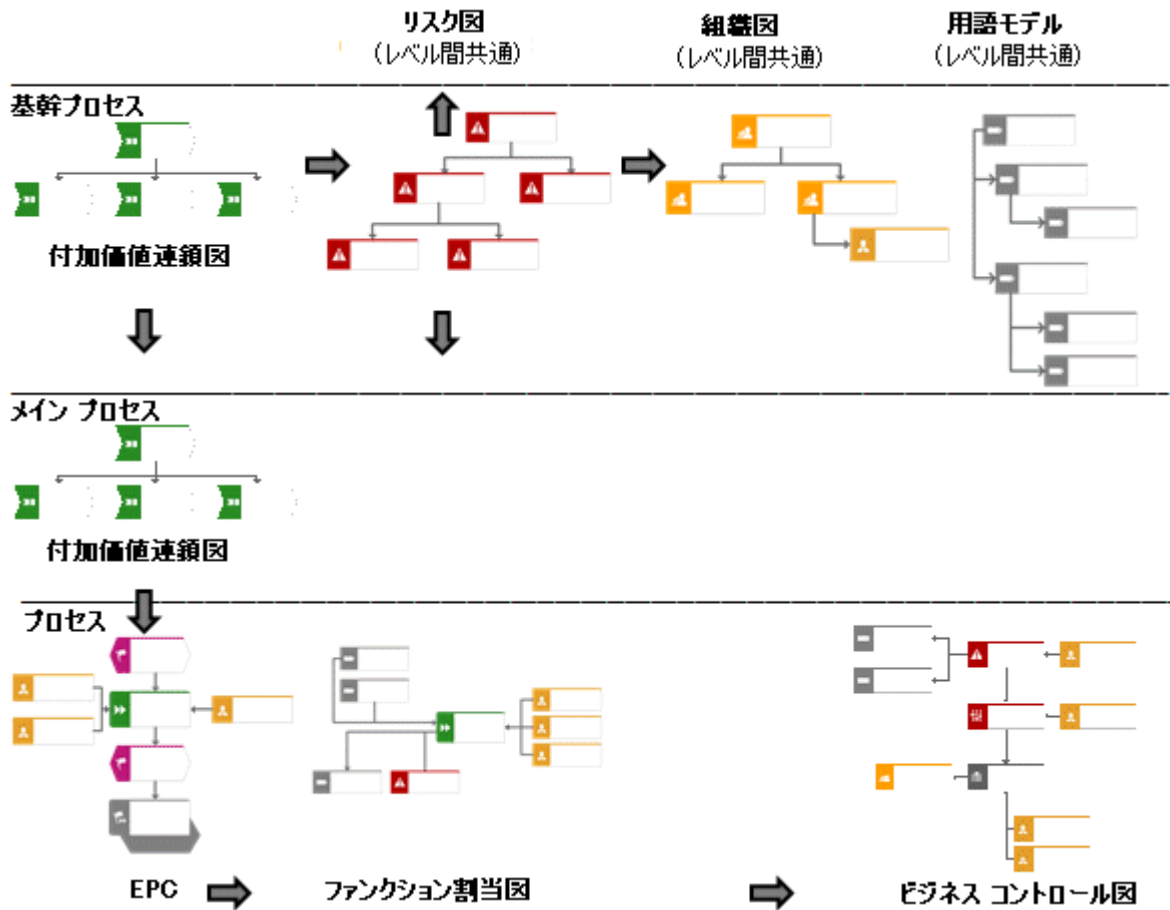


図 1: モデリング レベルおよびモデル タイプ

## 4.1.2 統制およびプロセスの識別

### 4.1.2.1 プロセス モデル

次のプロセス モデルは、プロセス ランドスケープ/プロセス階層を設定するために使用できます。

モデル名	モデル タイプ番号
付加価値連鎖図	12
EPC	13
ファンクション割当図	14
PCD	18
EPC (マテリアル フロー)	50
PCD (マテリアル フロー)	51
EPC (列表示)	134
EPC (行表示)	140
EPC (テーブル表示)	154
EPC (水平テーブル表示)	173
Enterprise BPMN collaboration diagram	272
Enterprise BPMN process diagram	273

次の章には、プロセス ランドスケープのモデル作成例が含まれます。



### 4.1.2.2 レベル 1 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD)

概要プロセス モデルはレベル 1 の中心モデルです。このモデルは、[付加価値連鎖図] モデル タイプを使用してモデル化されます。この基幹プロセスの概要はエントリ モデルとして使用されます。

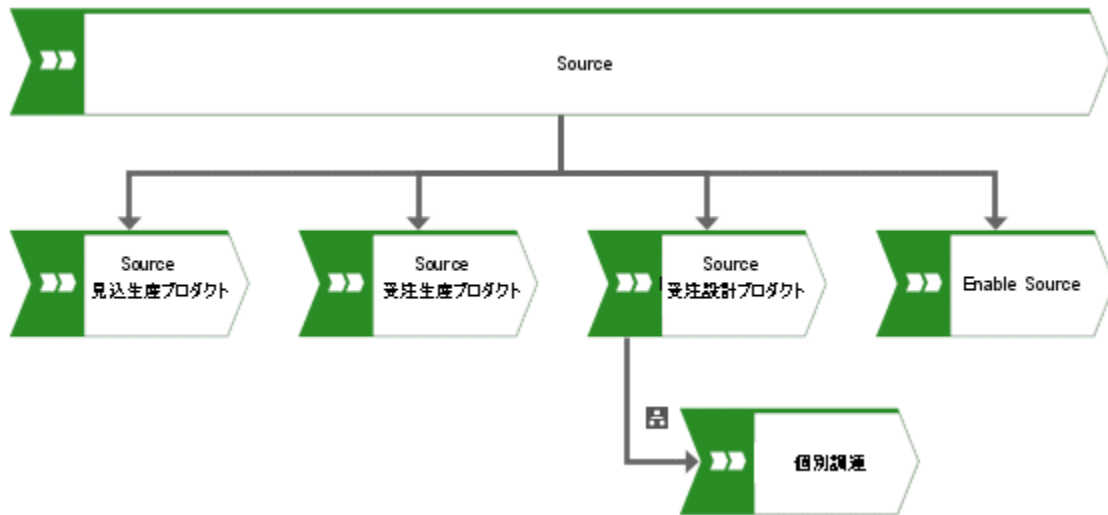


図 2: レベル 1 - 付加価値連鎖図

使用されるオブジェクト タイプは [ファンクション] (OT\_FUNC) です。オブジェクト間の階層は、[プロセス指向的に上位にある] 接続線または [プロセス指向的に下位にある] 接続線を使用してマッピングします。

ARIS Risk & Compliance Manager では、使用できる階層のツリー構造は 1 つだけです。したがって、各ファンクションの上位ファンクションは 1 つしかありません。

次のモデル タイプは、VACD で 1 つのオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション [付加価値連鎖]	VACD
ファンクション [付加価値連鎖]	ファンクション割当図

階層要素は、関連するファンクションごとに ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。例外：最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

### 4.1.2.2.1 ファンクションとプロセス階層要素 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [ファンクション] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
ファンクション	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	hnumber	プロセス階層には関係なし
				HIERARCHY	type	プロセス階層 (値 4)
ファンクション	説明/定義	AT_DESC	○	HIERARCHY	description	
				HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
ファンクション	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	○	HIERARCHY	signoff	
ファンクション	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	ファンクションのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に使用できるプロセス モデル (EPC、VACD など) が選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
ファンクション	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
ファンクション	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
				HIERARCHY	children	下位階層要素
				HIERARCHY	so_owner	関連するサインオフ所有者グループ
				HIERARCHY	tester	この階層タイプには関係なし

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 4.1.2.3 レベル 2 でのプロセスのモデル化 - 付加価値連鎖図 (VACD)

付加価値連鎖図はレベル 2 のモデルとして使われます。レベル 2 は、メイン プロセスを表し、レベル 3 の下位プロセスのコンテキストをマッピングするために使用されます。



図 3: レベル 2 - 付加価値連鎖図

付加価値連鎖としてモデリングされる基幹プロセスに関しても、同様の規則が適用されます。

次のモデル タイプは、VACD でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図

### 4.1.2.4 レベル 3 のプロセスおよび統制モデル作成 - イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC)

EPC を使用して、企業のプロセスを記述することができます。この EPC は、実行される活動の論理的および時系列的な流れに基づいています。さらに、一連のファンクションおよびその結果としてのイベントも使用されます。このような簡略化したプロセスに、追加情報を含むほかのオブジェクト（組織ユニット、役職（役割）、アプリケーション システムなど）を補足することができます。このため、たとえば [発生する] 接続線を持つリスクは、EPC のファンクションに直接接続できます。

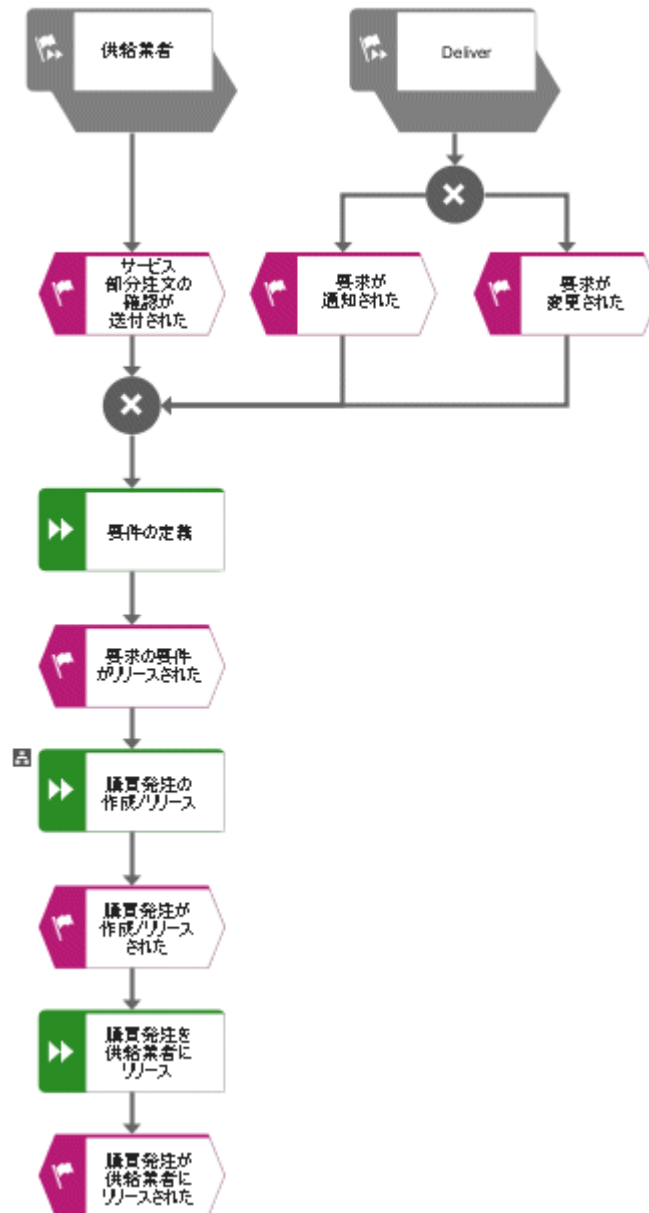


図 4: レベル 3 - イベント駆動プロセス連鎖図

次のモデル タイプは、EPC でオブジェクト タイプにアサインできます。

オブジェクト タイプ	アサインされるモデル タイプ
ファンクション	EPC
ファンクション	ファンクション割当図
リスク	EPC
リスク	ビジネス コントロール図

### レベル 3 - ファンクション割当図 (FAD)

EPC は、簡略化した EPC (つまり、組織ユニット、役職およびアプリケーション システムを含めない) としてモデル化することもできます。こうした追加オブジェクトとファンクションとの関係は、ファンクション割当図でモデル化され、ファンクションにアサインされます。ファンクション割当図のオブジェクトとシンボル タイプを使用することによって、簡略 EPC を拡張 EPC にすることができます。そのオブジェクトとシンボル タイプは次のとおりです。

- ファンクション
- 役職
- 組織ユニット
- 組織ユニット タイプ
- グループ
- 役割
- 内部要員
- アプリケーション システム
- アプリケーション システム タイプ
- 情報媒体 (ファイル、文書)
- リスク

### 4.1.3 企業の追加階層の文書化

ARIS Risk & Compliance Manager に転送されるすべての階層に使用できるツリー構造は 1 つだけです。つまり、階層の各要素の上位アイテムは 1 つのみです。

### 4.1.3.1 規定階層

規定階層は、[用語] オブジェクト (OT\_Tech\_TRM) を使用して、ARIS の用語モデルでモデル化されます。[規定] 属性は、一意に規定 (API 名: AT\_AAM\_ANNUAL\_ACCOUNTS\_ITEM) を識別するために使用できます。オブジェクト間の階層は、[持つ] 接続線を使用してマッピングします。

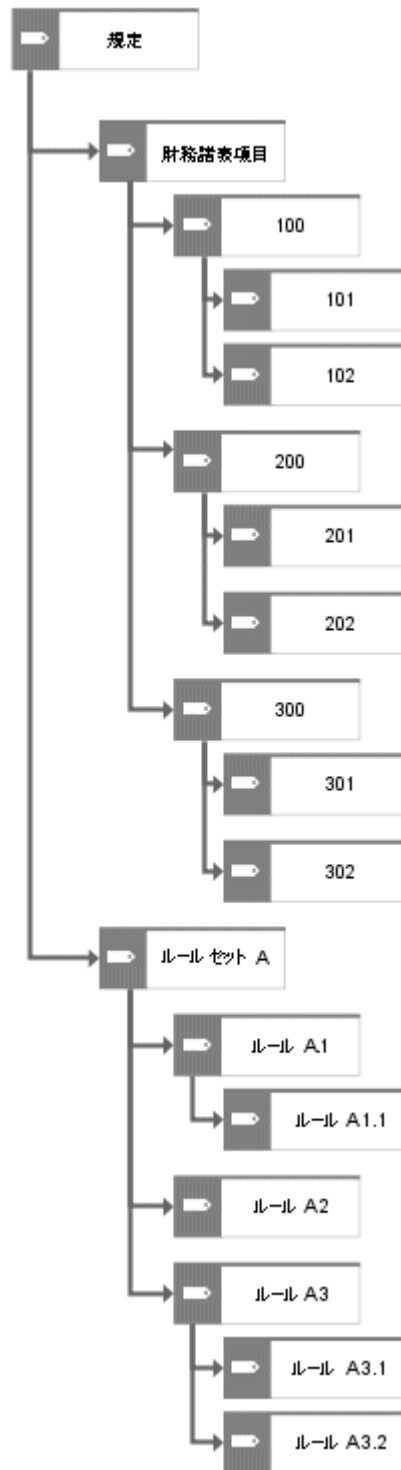


図 5: 規定階層構造



### 4.1.3.1.1 用語 (ABA) と規定階層要素 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [用語] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
用語	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
用語	概要説明	AT_SHORT_DESC		HIERARCHY	hnumber	
				HIERARCHY	type	規定階層 (値 2)
用語	説明/定義	AT_DESC		HIERARCHY	description	
			○	HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
用語	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	○	HIERARCHY	signoff	
用語	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	用語のオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる用語モデルが選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
用語	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
用語	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
				HIERARCHY	children	下位階層要素
				HIERARCHY	so_owner	関連するサインオフ所有者グループ
				HIERARCHY	tester	この階層タイプには関係なし

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 4.1.3.2 検査者の階層

検査者の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT\_ORG\_UNIT) を使用して ARIS の組織図でモデル化されます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用してマッピングされます。

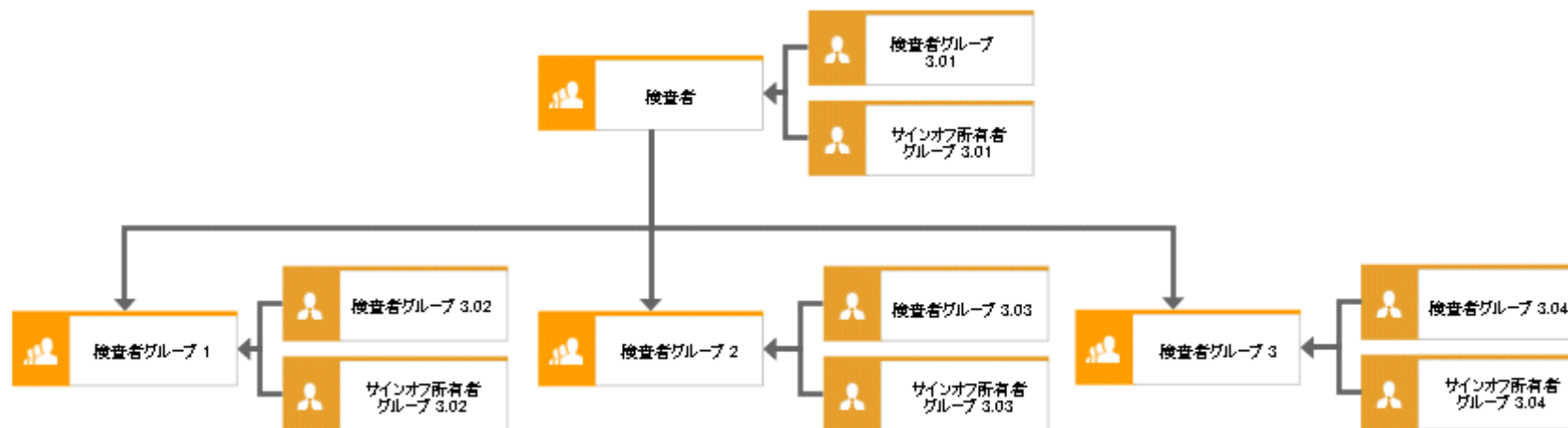


図 6: 検査者の階層

そのため、ARIS Risk & Compliance Manager では検査者の階層要素は組織ユニットごとに作成されます (例外: 最上位階層要素は既に ARCM に存在しています)。現在、各階層要素は、1 ユーザー グループ 『22 ページ』にのみ割り当てることができます。

このため、上の例では検査者階層要素 [検査者]、[検査者グループ 1]、[検査者グループ 2]、[検査者グループ 3] が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。[検査者] は、他の階層要素の上位に位置します。

### 4.1.3.2.1 組織ユニット (ABA) と検査者階層要素 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [組織ユニット] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
組織ユニット	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	hnumber	検査者階層には関係なし
				HIERARCHY	type	検査者階層 (値 = 1)
組織ユニット	説明/定義	AT_DESC	○	HIERARCHY	description	
				HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
組織ユニット	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	○	HIERARCHY	signoff	
組織ユニット	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	組織ユニットのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる組織図が選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
組織ユニット	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
組織ユニット	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
				HIERARCHY	children	下位階層ユニット
				HIERARCHY	so_owner	関連するサインオフ所有者グループ
				HIERARCHY	tester	関連する検査者グループ

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 4.1.3.3 組織の階層

組織の階層は、[組織ユニット] オブジェクト (OT\_ORG\_UNIT) を使用して ARIS の組織図でモデル化されます。[グループ] (OT\_GRP)、[役職] (OT\_POS) および [場所] (OT\_LOC) の各オブジェクトも使用することができます。オブジェクト間の階層は、[上位にある] 接続線を使用してマッピングされます。



図 7: 組織階層構造

そのため、組織の階層要素は関連する組織ユニットごとに作成されます例外：最上位階層要素は既に ARIS Risk & Compliance Manager に存在しています。

このため、上の例では組織階層要素である [組織]、[経理部]、[監査部]、[購買部] が ARIS Risk & Compliance Manager で作成されます。[組織] は、ほかの階層要素の上位に位置します。

### 4.1.3.3.1 組織ユニット (ABA) と組織階層要素 (ARCM) の割り当て

次の属性割り当ては [組織ユニット] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
組織ユニット	名前	AT_NAME	○	HIERARCHY	name	
				HIERARCHY	isroot	最上位階層要素に対してのみ「true」
				HIERARCHY	hnumber	組織階層には関係なし
				HIERARCHY	type	組織階層 (値 = 3)
組織ユニット	説明/定義	AT_DESC	○	HIERARCHY	description	
				HIERARCHY	status	アクティブの場合、ステータスは「true」
組織ユニット	サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	○	HIERARCHY	signoff	
組織ユニット	モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK		HIERARCHY	modellink	
				HIERARCHY	modelguid	組織ユニットのオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる組織図が選択されます。
				HIERARCHY	model_name	モデル名 (上記参照)
組織ユニット	オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK		HIERARCHY	objectlink	
組織ユニット	オブジェクトの GUID			HIERARCHY	objectguid	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
				HIERARCHY	children	下位階層要素
				HIERARCHY	so_owner	関連するサインオフ所有者グループ
				HIERARCHY	tester	組織階層には関係なし

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。



#### 4.1.3.4 リスクの階層 (オプション)

リスクの階層は ARIS の危機図でモデル化されます。リスク (OT\_RISK) は、ここで分類できます。リスクをカテゴリ (OT\_RISK\_CATEGORY) の下位に配置し、関係タイプ [含む] を使用して、そのカテゴリをほかのカテゴリの下位に配置することもできます。この階層は構造化に使用されますが、[オペレーショナル リスク管理] モジュールと関連付けられている場合のみ転送されます。

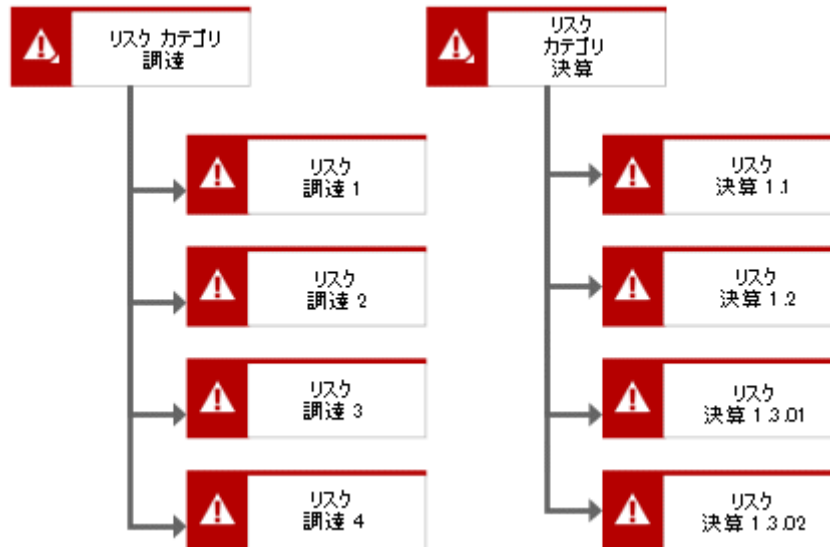


図 8: リスク階層構造

### 4.1.4 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT\_PERS) および [役割] (OT\_PERS\_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。



図 9: ユーザーおよびユーザー グループの構造

上位役割 [サインオフ担当者\_2] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。[サインオフ担当者グループ 2.01] は、[サインオフ担当者\_2] の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>\_<レベル>、つまり [サインオフ担当者\_2] > 役割: サインオフ担当者、レベル: 2 (またはクライアント固有) です。上位役割 (この場合では、[サインオフ担当者\_2]) には、ARIS Risk & Compliance Manager ではユーザー グループは生成されません。

以下がさまざまなレベルに適用されます。

- レベル 1: クライアント汎用  
つまり、権限が複数クライアントに割り当てられます。
- レベル 2: クライアント固有  
つまり、権限が特定のクライアントに割り当てられます。
- レベル 3: オブジェクト固有  
つまり、方針、リスク、または統制などの特定のオブジェクトに権限が割り当てられます。

上記の例では、[サインオフ担当者グループ 2.01] ユーザー グループは、[サインオフ担当者] 役割およびレベル「2」(つまりクライアント全体にわたる権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。さらに、ユーザー ID が「SOM\_01」のユーザーが生成されます。

#### 役割名 (ARCM) と役割 (ABA) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager での役割と ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。

役割 (ARCM)	役割 (ABA)	注意
roles.testauditor	検査監査人	レベル 1、2、および 3
roles.testauditorexternal	検査監査人 (外部)	レベル 1 および 2
roles.deficiencyauditor.l1	不備監査人 (L1)	レベル 1 および 2
roles.deficiencyauditor.l2	不備監査人 (L2)	レベル 1 および 2

役割 (ARCM)	役割 (ABA)	注意
roles.deficiencyauditor.l3	不備監査人 (L3)	レベル 1 および 2
roles.deficiencymanager.l1	不備担当者 (L1)	レベル 1 および 2
roles.deficiencymanager.l2	不備担当者 (L2)	レベル 1 および 2
roles.deficiencymanager.l3	不備担当者 (L3)	レベル 1 および 2
roles.groupusermanager	ユーザー/ユーザー グループ担当者	レベル 1 および 2
roles.hierarchymanager	階層担当者	レベル 1 および 2
roles.riskmanager	リスク担当者	レベル 1、2、および 3
roles.controlmanager	統制担当者	レベル 1、2、および 3
roles.signoffmanager	サインオフ担当者	レベル 2 のみ
roles.signoffreviewer	サインオフ評価者	レベル 3 のみ
roles.signoffowner	サインオフ所有者	レベル 3 のみ
Roles.testmanager	検査担当者	レベル 1 および 2
roles.testreviewer	検査評価者	レベル 3 のみ
roles.tester	検査者	レベル 3 のみ
roles.issueauditor	課題監査人	レベル 1 および 2
roles.issuemanager	課題担当者	レベル 1 および 2
roles.incidentauditor	インシデント監査人	レベル 1 および 2
roles.incidentmanager	インシデント担当者	レベル 1 および 2
roles.incidentreviewer	インシデント評価者	レベル 3 のみ
roles.incidentowner	インシデント所有者	レベル 3 のみ
roles.lossauditor	損失監査人	レベル 1 および 2
roles.lossmanager	損失担当者	レベル 1 および 2
roles.lossreviewer	損失評価者	レベル 3 のみ
roles.lossowner	損失所有者	レベル 3 のみ

### 4.1.4.1 役割と要員の割り当て

#### 役割 (ABA) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
役割	-	role	○	[役割] と [役割レベル] の値は、上記のとおり指定されます。
役割レベル	-	rolelevel	○	
ユーザー	-	groupmembers	-	[ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 要員 (ABA) とユーザー (ARCM) の割り当て

古いモデル作成の規則に基づいた既存のデータベースは、提供されている ARCM user migration.arx レポートを使用して移行できます。姓と名の 2 つの属性は同じ属性から派生するため、結果を確認する必要があります。

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ログイン	AT_LOGIN	Userid	○	ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。
名	AT_FIRST_NAME	firstname	○	
姓	AT_LAST_NAME	lastname	○	
		name	-	姓と名の組み合わせ。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	email	○	
電話番号	AT_PHONE_NUM	phone	-	
		clients	-	[クライアント] フィールドは、データのインポート先のクライアントによって指定されます。
		substitutes	-	[代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 4.1.5 リスクの分析、および統制と検査の展開

プロセスで識別されたリスクに関して、統制および検査の定義は、ビジネス コントロール図で行うことができます。また、どのリスクがどの貸借対照表項目に影響を及ぼすかといった、企業階層への影響についても、記録することができます。

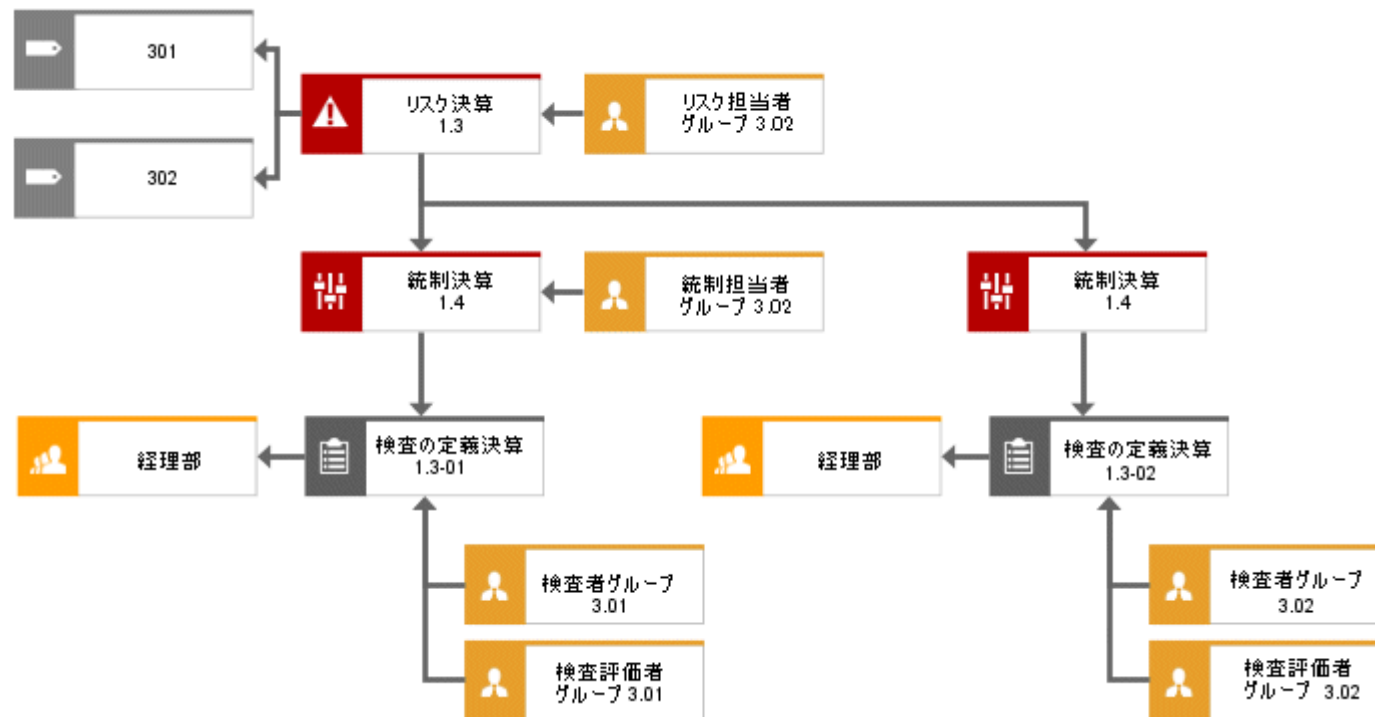


図 10: ビジネス コントロール図の構造

リスク担当者グループおよび統制担当者グループの割り当てはオプションです。

#### リスク オブジェクトと関連オブジェクトの関係

次の接続線がビジネス コントロール図のオブジェクトで使用できます。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注意
リスク	影響する	用語	この接続線によって、規定への関係が作成される
リスク	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、リスク担当者への関係が作成される
リスク	減らされる	統制	この接続線によって、統制への関係が作成される
統制	監視される	検査の定義	この接続線によって、統制への関係が作成される
統制	技術的責任を持つ	役割	この接続線によって、統制担当者への関係が作成される
検査の定義	影響する	組織ユニット	この接続線によって、関係する組織ユニットへの関係が作成される
検査の定義	割り当てられている	役割	この接続線によって、検査者、および検査評価者への関係が作成される

### 4.1.5.1 リスク

リスクは、[リスク] オブジェクト (OT\_RISK) を使用して ARIS Architect でモデル化します。ARIS Risk & Compliance Manager では、[エクスポート関連] 属性が設定されているリスクごとにリスクが作成されます。

#### リスク (ABA) とリスク (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [リスク] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	名前	AT_NAME	○	RISK	name	
リスク	リスク ID	AT_AAM_RISK_ID		RISK	risk_id	
リスク	リスク タイプ	AT_AAM_RISK_TYPE_ FINANCIAL_REPORT AT_AAM_RISK_TYPE_ COMPLIANCE AT_AAM_RISK_TYPE_ OPERATIONS AT_AAM_RISK_TYPE_ STRATEGIC	○	RISK	risktype	値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される
リスク	説明/定義	AT_DESC	○	RISK	description	
			○	RISK	risk_function	ファンクションへの接続線によって 指定され、プロセス階層要素へ の対応するリンクが ARCM に 保存される



ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
			○	RISK	financial_statement	用語への接続線によって指定され、規定階層要素への対応するリンクが ARCM に保存される
リスク	影響	AT_AAM_IMPACT	○	RISK	impact	
リスク	確率	AT_AAM_PROBABILITY	○	RISK	probability	
リスク	リスク カタログ 1	AT_AAM_RISK_CATALOG_1		RISK	risk_catalog1	
リスク	リスク カタログ 2	AT_AAM_RISK_CATALOG_2		RISK	risk_catalog2	
リスク	タイトル 1 およびリンク 1 ～ タイトル 4 およびリンク 4 まで	AT_TITL1 および AT_EXT_1 など。		RISK	documents	文書 (O_10) が タイトルとリンクから ARCM で生成され、リスクに接続される
				RISK	controls	統制への接続線によって指定され、統制への対応するリンクが ARCM に保存される
				RISK	risk_owner_group	役割への接続線によって指定され、リスク担当者への対応するリンクが ARCM に保存される

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
リスク	アサーション	AT_AAM_ASSERTIONS_ EXIST_OCCURRENCE AT_AAM_ASSERTIONS_ COMPLETENESS AT_AAM_ASSERTIONS_ RIGHTS_OBLIGATIONS AT_AAM_ASSERTIONS_ VALUATION_ALLOCATION AT_AAM_ASSERTIONS_ PRESENTATION_DISCLOSUR E AT_AAM_ASSERTIONS_NA	○	RISK	assertions	値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される 値の依存性 が存在する。最初の 5 つの値 は、最後のエン트리と組み合わせ て発生できない。

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

## 4.1.5.2 統制

統制は、[ファンクション] オブジェクト (OT\_FUNC) とそのデフォルト シンボル (ST\_CONTR) を使用して ARIS でモデル化します。[エクスポート関連] のリスクでモデル化される統制のみが ARIS Risk & Compliance Manager へのエクスポートに関連しています。

### ファンクション (統制) (ABA) と統制 (ARCM)

次の割り当ては [ファンクション (統制)] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
統制	名前	AT_NAME	○	CONTROL	name	
統制	統制 ID	AT_AAM_CTRL_ID		CONTROL	control_id	
				CONTROL	control_owner_group	役割への接続線によって指定され、統制担当者への対応するリンクが ARCM に保存される
統制	統制の頻度	AT_AAM_CTRL_FREQUENCY	○	CONTROL	control_frequency	
統制	統制の実行	AT_AAM_CTRL_EXECUTION_MANUAL AT_AAM_CTRL_EXECUTION_IT	○	CONTROL	control_execution	値が「true」の場合、ARCM で列挙が設定される
統制	統制の効果	AT_AAM_CTRL_EFFECT	○	CONTROL	control_effect	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
統制	内部統制の構成要素	AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ENVIRONMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_RISK_ASSESSMENT AT_AAM_COSO_COMPONENT_CTRL_ACTIVITIES AT_AAM_COSO_COMPONENT_INFO_COMMUNICATION AT_AAM_COSO_COMPONENT_MONITORING		CONTROL	control_type	値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される
統制	統制活動	AT_AAM_CTRL_ACTIVITY	○	CONTROL	controls	
				CONTROL	testdefinitions	検査の定義への接続線によって 指定され、検査の定義への対応 するリンクが ARCM に保存さ れる
統制	統制の目的	AT_AAM_CTRL_OBJECTIVE		CONTROL	control_objective	
統制	キー コントロール	AT_AAM_KEY_CTRL	○	CONTROL	key_control	

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

### 4.1.5.3 検査の定義

検査の定義は、[検査の定義] オブジェクト (OT\_TEST\_DEFINITION) を使用して ARIS でモデル化します。[エクスポート関連] の統制でモデル化される検査の定義のみが ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートに関連しています。

#### 検査定義 (ABA) と検査定義 (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [検査の定義] オブジェクトに適用できます。

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
検査の定義	名前	AT_NAME	○	testdefinition	name	
検査の定義	検査活動	AT_AAM_TEST_ACTIVITY	○	testdefinition	testingsteps	
検査の定義	検査の種類	AT_AAM_TEST_NATURE_INQUIRY AT_AAM_TEST_NATURE_OBSERVATION AT_AAM_TEST_NATURE_EXAMINATION AT_AAM_TEST_NATURE_REPERFORMANCE	○	testdefinition	test_nature	値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される
検査の定義	検査タイプ	AT_AAM_TEST_TYPE_DESIGN AT_AAM_TEST_TYPE_EFFECTIVENESS	○	testdefinition	test_type	値が「true」の場合、ARCM で 列挙が設定される
検査の定義	検査の規模	AT_AAM_TEST_SCOPE	○	testdefinition	testextend	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
			○	testdefinition	test_owner_group	[検査者] の役割を持つ役割への接続線によって指定され、検査者への対応するリンクが ARCM に保存される
検査の定義	イベント駆動のテスト ケース許可	AT_EVENT_DRIVEN_TESTS_ALLOWED	○	testdefinition	event_driven_allowed	「true」が設定されている場合は、検査の定義は自動の統制検査にのみ使用されます。同時に、検査の頻度は [場合に応じる] に設定されている必要があります。
検査の定義	検査の頻度	AT_AAM_TEST_FREQUENCY	○	testdefinition	testfrequency	
検査の定義	実行期限 (単位: 日)	AT_AAM_TEST_DURATION	○	testdefinition	testduration	
検査の定義	検査の定義の開始日	AT_AAM_TESTDEF_START_DATE	○	testdefinition	testdefinition_startdate	
検査の定義	検査の定義の終了日	AT_AAM_TESTDEF_START_DATE		testdefinition	testdefinition_enddate	
検査の定義	統制期間の長さ	AT_AAM_TESTDEF_CTRL_PERIOD	○	testdefinition	control_period	
検査の定義	オフセット (単位: 日)	AT_AAM_TESTDEF_OFFSET	○	testdefinition	offset	

ARIS オブジェクト	ARIS 属性	API 名	M*	ARCM オブジェクト	ARCM 属性	注意
			○	testdefinition	test_reviewer	[検査評価者] の役割を持つ 役割への接続線によって指定され、 検査評価者への対応するリンクが ARCM に保存される
			○	testdefinition	effected_orgunit	組織ユニット (または、グループ、 役職、場所) への接続線によっ て指定され、影響を受ける組織 ユニットへの対応するリンクが ARCM に保存される
検査の定義	フォローアップ使用可	AT_AAM_TESTDEF_ FOLLOWUP	○	testdefinition	isfollowup	

\*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

#### 4.1.5.4 一般モデル作成規則

モデル化されたビジネス コントロール図の中で、これらのリスクが一意である必要があります。1 つのリスクは複数の統制を持つことができますが、1 つの統制が持つことができるリスクは 1 つのみです。リスクは、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことができません。また、1 つのファンクションとのみ接続できます。

統制は、モデル化されたビジネス コントロール図内で一意である必要があります、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことはできません。統制は、[エクスポート関連] 属性が設定されている 1 つのリスクに接続できます。統制は、最低 1 つの検査の定義に接続できます。

検査の定義は、モデル化されたビジネス コントロール図内で一意である必要があります、2 つ以上のビジネス コントロール図でオカレンスを持つことはできません。検査の定義は、[エクスポート関連] 属性が設定されている 1 つのリスクに接続されている 1 つの統制に接続でき、統制は最低 1 つの検査の定義に接続されます。

#### 4.1.5.5 自動の統制検査

イベントを有効にすることによって自動の統制検査を実行するには、[イベント駆動のテスト ケース許可] 属性を「true」に設定する必要があります。自動の統制検査は、外部イベントなどによりアドホックで実行されます。

さらに、年内にシステムによってテスト ケースが生成されないように、[場合に応じる] 属性値を [検査の頻度] 属性に選択する必要があります。この頻度は、アドホックの検査を処理するためにのみ使用されます。

### 4.1.6 サインオフ

#### 4.1.6.1 プロセス階層を使用するサインオフ

サインオフに関して、ファンクションとサインオフ所有者グループ（役割）間の関係は、付加価値連鎖図でモデル化されます。次の図に例を示します。

ARIS Risk & Compliance Manager へのエクスポートに関連するファンクションの初期選択は、[エクスポート関連] のリスクへの [発生する] 接続線によって指定されます。



図 11: ファンクションの割り当て - サインオフ所有者グループ

[決定する] 接続線によって、サインオフ所有者グループ（ユーザー グループ）とプロセス階層要素間の関係が作成されます。



## 4.1.6.2 規定階層を使用するサインオフ

規定階層を使用するサインオフに関しては、規定とサインオフ所有者グループとの関係がファンクション割当図でモデル化されます。[所有者である] 接続線によって、ユーザー グループと階層要素間の関係が作成されます。



図 12: 規定 - サインオフ所有者グループの割り当て

### 4.1.6.3 検査者階層を使用するサインオフ

検査者階層を使用するサインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が検査者階層の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザーグループと階層要素間の関係が作成されます。

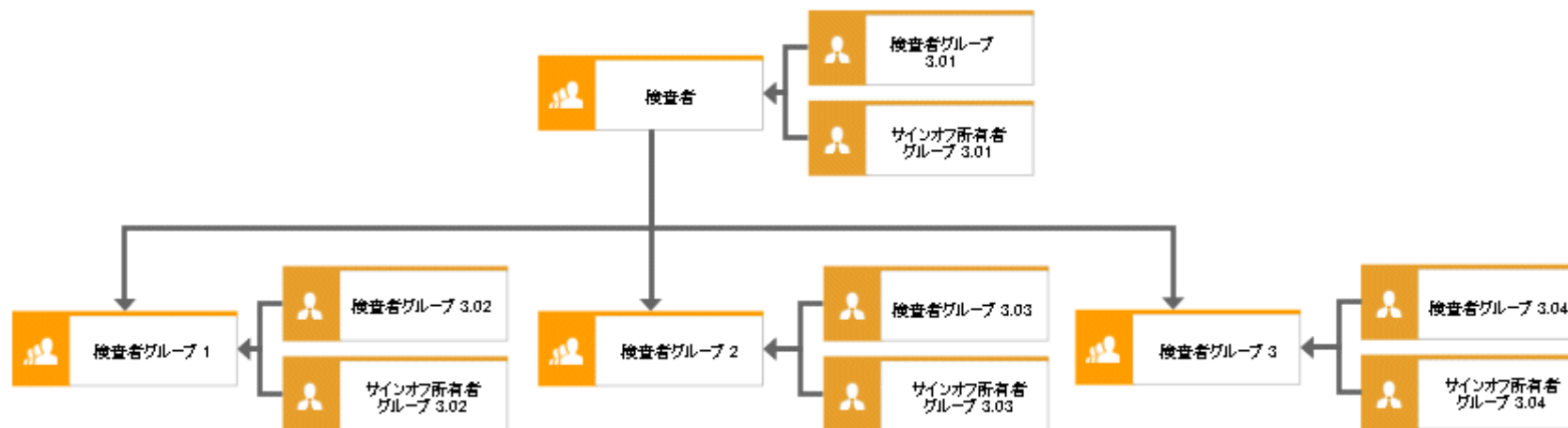


図 13: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループの割り当て

#### 4.1.6.4 組織階層を使用するサインオフ

サインオフに関しては、組織ユニットとサインオフ所有者グループの関係が企業組織の組織図でモデル化されます。[属する] 接続線によって、ユーザーグループと階層要素間の関係が作成されます。

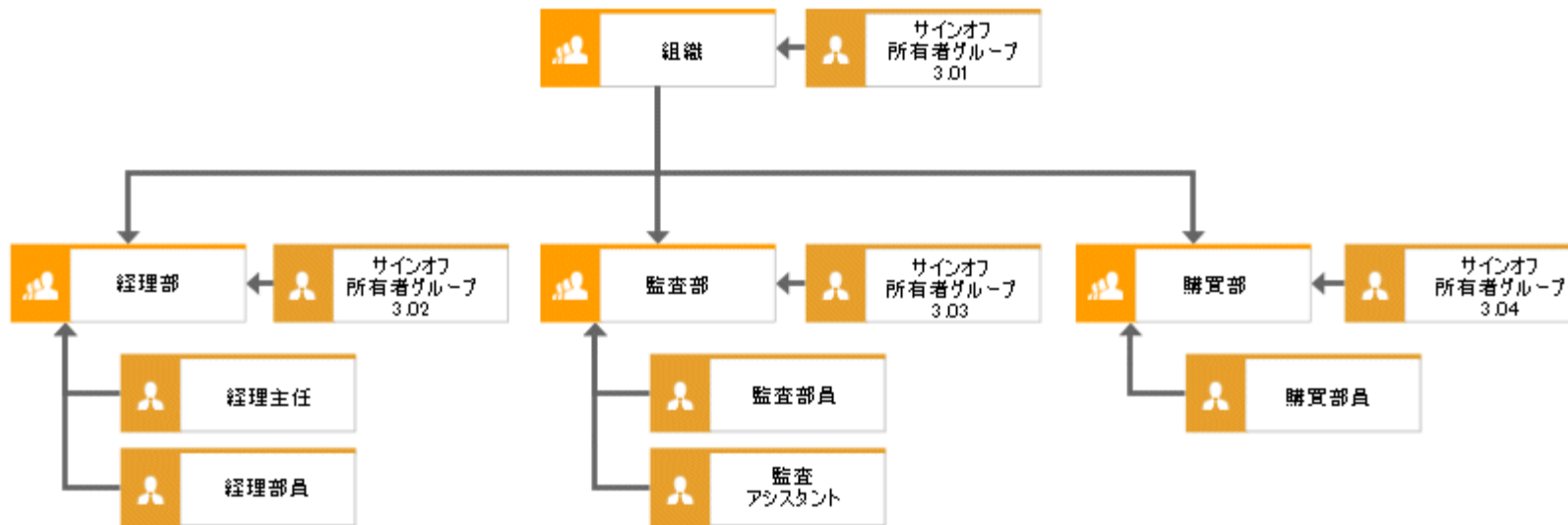


図 14: 組織ユニット (検査者) - サインオフ所有者グループ

## 4.2 オブジェクトと関係の非アクティブ化

ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は、変更を追跡できるようにするためバージョン管理されます。そのため、ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は非アクティブにされ、削除されません。つまり、対応するデータ アイテムは非アクティブになり、データベースからは削除されません。

インポートによって ARIS Risk & Compliance Manager でオブジェクト/関係を非アクティブにするには、対応するように ARIS Architect でマークする必要があります。これを実行するには、[非アクティブ] (AT\_DEACT) 属性を使用します。この属性はオブジェクトと接続線の両方に設定できます。属性が設定されると、オブジェクトまたは接続線は次にインポートを実行する際に非アクティブになります。

もちろん、これが実行されるのは、ARIS Architect エクスポート ファイルにオブジェクトと関係が含まれている場合のみです。ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートが正常に実行されたら、ARIS Architect でオブジェクト/接続線を削除できます。インポートが実行される前にオブジェクト/接続線が ARIS Architect で削除された場合は、これらを ARIS Risk & Compliance Manager で手動で非アクティブにできます。